

## 試聴会・訪問記掲載

### 河口無線ハイファイリティ試聴会報告(2015.11.28)

河口無線で開催されたオーロラサウンド「PADA」試聴会に行ってきました。この PADA は EL34 の三極管接続の平行プッシュプル駆動するものです。

#### <使用機材>

以下のようなラインアップで計画されていました。

パワーアンプ：オーロラサウンド PADA

プリアンプ：オーロラサウンド PREDA

ターンテーブル：トランスローター AVORIO

SACD プレーヤー：ラックスマン D-08u

スピーカーシステム：アバロンダイヤモンド



#### <試聴の経過>

試聴は機器の解説を交えながら行われましたが、最初に機器の解説をまとめて記載します。

PADA は EL34 の三極管接続の無帰還の平行プッシュプル駆動で、EL34 は TELEFUNKEN の復刻仕様のスロヴァキアの JJ 製とのことです。前段はディスクリートの石の構成で、パワー段とはファインメットコアのトランス結合になっています。出力トランスはルンダール製で、真空管と出力トランスのインピーダンスを調節することにより、4Ω、8Ω、16 オームなどの端子を省いているとのことです。PREDA はバランス入出力をもち、回路は完全 L/R 独立で、ヴォリュームはトランス式です。VIDA は電源部を別躯体とした、LCR のイコライザー回路で構成されています。アナログは、オーディオテクニカ AT33SA のカートリッジを使用し、VIDA→PREDA→PADA のルートで再生され、CD はラックスマン D-08u→PREDA→PADA のルートで再生されました。以下、アナログと CD を織り交ぜ、また同一マスターのアナログと CD の聴き比べもありました。

最初は CD の女性ボーカル、ついでアナログで JAZZ のベースのソロの部分が再生されました。さらに、ジャズで CD vs.アナログの聴き比べが 2 曲ずつありました。低域の緩みは仕方ないとしても、アナログの良さを味わうことができました。

アメリカンポップスのアナログ、イーグルスの CD、和製の JAZZ と続き、30 弦琴と津軽三味線のダイレクトカッティングのアナログ、ジミヘンのロックと続きました。さらに、昔懐かしい、ピーター、ポール&マリー (PPM) のアナログが続けて 3 曲と PPM のアナログから変換した CDR も飛び入りでかけられました。

再度、エレキのアナログがかけられ、デモが終わった後で、参加者の希望でチェロソナタとピアノ曲の CD がかけられました。

まず、アナログについては、非常に S/N が良く、広帯域の印象でフォノイコ部はよくできていると感じました。CD はおそらく D-08u の音そのまま出ているような印象で、プリ部は色付けが少ないという印象です。PADA は駆動力があり、S/N 比がよく、リニアリティのよいアンプと言う印象です。

音の印象としては、ロックやダイレクトカッティング盤などは切れ味よく抜けきった感じで、このラインアップのもっとも得意とするジャンルのように感じます。JAZZ では少し誇張感があるものの、こういう音を好まれる向きは多いと思います。

残念だったのはクラシックのデモがなく、参加者持ち込みの CD だけの印象ですが、少しドライな印象がして、もう少しクラシック系統に要求される湿度感や倍音の豊かさや音に艶が欲しいと感じました。

以上